祝　移情閣友の会結成３５周年

孫文記念館館長　愛新　翼

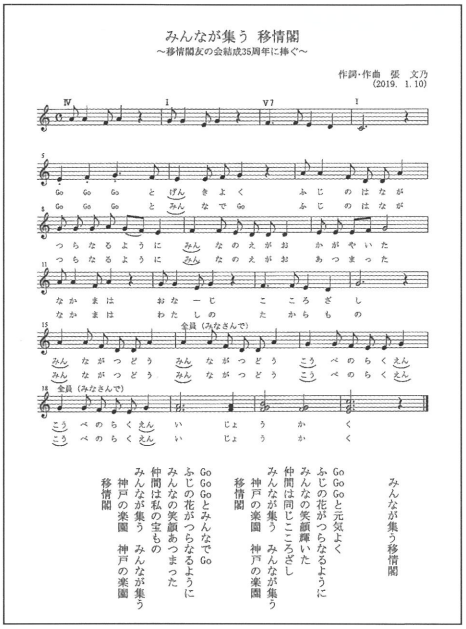
移情閣友の会は、１９８４年１２月に結成され、昨年で３５年周年を迎えました。友の会に関係した者として、嬉しく思うと同時にお祝い申し上げます。この間、多くの人々の献身的努力により現在に至っています。これまでの歴代会長である、須田勇、林同春、黄耀庭等諸先輩、先生方の努力無くして、現在の移情閣友の会はないと思います。これからも諸先輩先生方の精神を引き継ぎ４０年、４５年と更に発展すべく次世代にバトンを繋いでいくことを願っています。

２０１８年神戸において開催された「孫中山・宋慶齢記念地聯席会議」は世界より、３２団体、８６名の代表の参加のもと挙行されました。これも多くの人々のご支援、ご協力により成功裡に終えることができました。そんな中、特に移情閣友の会の皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

移情閣友の会の活動は、年々活発で林同福会長はじめ執行部の皆さんの献身的努力により、会員も増え、活動内容も多種多様になり、豊富になって来ております。頼もしい限りです。

移情閣みんなの歌が完成

NPO 法人国際音楽協会理事長　張　文乃



「移情閣みんなの歌」ができました。「藤の花のようなみんなの笑顔」「仲間は私の宝物」と歌詞に盛り込み、30 年余り活動してきた皆さんと口ずさめるようにと作りました。不思議なもので、去年の新春の集いで「時を重ねるということ」と題してお話しさせていただく準備をしていた時にふっと浮かんだ歌です。みなさんと過ごした時間が重なっているから浮かんだのだと思います。振り返れば、阪神淡路大震災で移情閣が使えなくなり場所を転々としたこと。10 人の有志で始まり 30 人近くまで増えた時期もあったこと。そもそも、移情閣友の会設立一周年記念のイベントで、アグネス・チャンが歌った「大海啊故郷」を歌いたいと発足したこと。訪中交流演奏の旅ごとに少しずつレパートリーを増やしていったこと…これらすべてが「仲間」である皆さんと共にありました。まさに皆さんは私の宝物。これからも共に音楽そして歌を楽しみたいと思います。

いっそうのご活躍とご支援を―「友の会」35 周年に―

孫文記念館名誉館長　安井　三吉

35 周年、おめでとうございます。

孫文記念館とともに歩んできた歳月ですね。記念館をさまざまな側面から応援して下さったことにまずはお礼申し上げます。「友の会」には「友の会」としての独自の活動がありますが、「友の会」は記念館にとって大切な存在です。記念館（移情閣）の周辺の住民を中心とした皆さんが、記念館の発展に心を寄せ、日頃なにかと支えて下さっていることは、記念館にとって何よりありがたいことです。

私が館長の時期、佐瀬祥一さんが企画運営委員長をされていましたが、こまごましたことでもよく手伝って下さり、またよく飲みに誘っていただきました。懐かしい思い出となっています。

少子高齢化の波はいろいろなところに押し寄せてきていますが、「友の会」も例外ではないように感ぜられますがいかがでしょうか？

新たな一年目を迎えて、「友の会」のいっそうのご活躍をお祈りするともに記念館にたいする一段のご支援をお願いします。